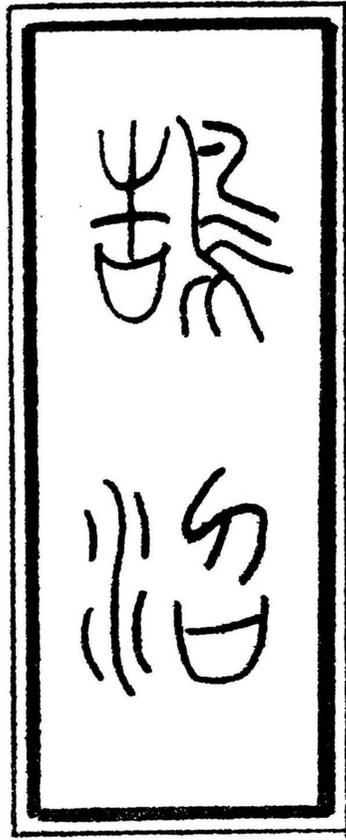


はまゆうと桜具と

海老るわが故里



昭和六十一年二月号  
道 卷第三十号

鶴沼を語る会

鵜沼を語る会

61年 1月 14日 (火)

広田弘毅氏と子母沢寛氏

富士 山

「鵜沼を語る会」では、文人や画家の話は屢々取りあげられたが、政治家については、まだ話されたことはないようだ。

それで私は鵜沼に住んで居れた、広田弘毅氏について語りたいと思う。

広田氏は東京大学法科を卒業されてから外交官となり

、諸外国に赴任したが、昭和二年に起こった二・二六

事件後の昭和二年3月から昭和五年2月まで、まる1年

総理大臣をつとめられた。鵜沼に住むようになったのは、いつか

はつきり知らない。氏の住んで居た所は、鵜沼松が岡一丁目

横の細い道と小さな家三軒をへだてて小田急江の島線に

接近しており、電車の音がうるさいので、どこか静かな所へ

移りたいと言われた。これを聞いた片瀬山の地主が広田さん

のためなら地面を安くゆづりまますと言うのを広田氏は、

わしのためならば安くしておくと言うのなら御免だと断られた。

藤沢市役所では、所有の雑木林の地面が、遊行寺の後ろにある

風景至極よいところだ、広田さんがご希望ならおゆずり致しま  
すが、ただその林の土地にはいる道がないので、もし広田さんが  
ご希望なら市の方で、車の通れる道を造って差し上げますと  
言うのを、広田氏は、わしのために道を造ると言うなら御免だ  
とて、その話もこわれた。その様に広田氏と言う方は、自分のため  
に他人が損をするような事は、絶対に受け入れなかった。

私は広田さんの色紙を

息子さんから貰ったが、  
全くこの通りのお方で  
あった。

以春風接人

以秋霜自肅

弘毅書

私は広田氏が首相になられてから、間もなく往診を依頼された。門をはいったところに番兵が立っていた。

玄関の入口に近い八畳程の室に、私服の憲兵が7、8人つめていた。奥の部屋に通されると、首相もご夫人も丁寧を迎えられた。病気は大したものではなかった。診察が終るとご夫人は、丁寧に玄関まで送って下された。私は首相や御夫人の礼儀正しいのに驚いた。

広田氏が首相になられた頃は、満州事変が既に起っており、満州にいる日本兵がどしどし中国の内部に侵入して行くのを、首相はうれいて陸相を呼んで、その侵入をとどめる様に言われると、陸相は、我々は大元帥陛下の命で動いているのである。首相といえども文官は、口出ししては困ると、そうして二、三日立つと日本軍は、ひきつづいて中国の内部めがけて進んで行く。広田氏が陸相を呼んで注意すると陸相は前と同じ返事する。

二、三日たって、更に日本軍は進んでゆく。この有様を見た外国の記者は、首相が陸相に指図して、日本軍が中国内部に侵入するのだと承けとられたろう。かくして首相のうれいる通り日本軍は

、どんどん中国内部に入り込んだ。以下は戦争の記事で誰れでも知っている事だから省略する。

只今、故首相の住まわれた家の門柱には広田とのみ書かれた表札がはってある。家は朽ちるままにしておかれたが、雨洩りがひどいのだろう、一年程前から屋根一面に青色のビニールがはられ風に飛ばされめように下部は細い板が釘づけにしてある。となりに単に広田と書いた表札がある。これは故首相の二男さんと娘さんの家と思われるが、御二人は亡き父と母のことを思い生涯結婚せぬお考えと思われる。スガモの監獄を訪れる二人の事が、当時の新聞に毎日報道されたものであった。

あの戦犯裁判に七人が死刑にされたが、六人の陸軍将官の死刑は納得されるが、広田氏は何をきかれても黙して自己辯解をせられなかったそうだ。返事をしないとすることは裁判を認めた事になると裁判官の方ではとったのだろう。

城山三郎著「落日燃ゆ」を読み感動した皆さんにも

御一読をおすすめします。

次に子母沢寛氏のことを簡単に追加します。子母沢氏

と私は交遊あつた訳ではありませんが、川崎市のある病院長が子母沢氏と親しく、私にくれてやるために子母沢氏に頼んで色紙を書いて貰い、私に送ってくれました訳です。

吾心似秋風

二行目が、一寸むづかしいがヘキタン、

碧潭清皎潔

セイクウ、キヨシと読むのです。

縁寒山詩

青い水がすみわたってうつくしいと

子母沢寛

言う意味です。

富士先生

広田氏の色紙と子母沢氏の色紙を並べて我が部屋に掲げてあります。子母沢氏は悠々自適の生涯で17年前76歳で亡くなりました。私より2年先に生まれた方です。

氏には「新撰組始末記」の名著がある。鶴沼にも何年か

住んでおられた。

申しおくれましたが、広田氏は（一八七八～一九四八）70歳で死亡せられました。お二人の生涯が余りに違うので、毎日色紙を見ながらもそれを思うのです。

（昭和60年10月15日記）

鵜 沼 昭和61年1月号  
通 卷 第 3 0 号

---

昭和61年1月14日発行  
編 集・鵜 沼 を 語 る 会

---

藤沢市鵜沼海岸2-10-34  
鵜 沼 公 民 館 内  
電 話 3 3 - 2 0 0 1、2 0 0 2